

復 命 書

平成27年 9月 13日

日進市議会議長 近藤 ひろき 様

氏 名 大橋 ゆうすけ 印

出張期間

平成27年7月23日

出張先：春日井市役所

窓 口：企画政策課

参 加 者

・大橋ゆうすけ

用 務

文部科学省が推進する「地（知）の拠点大学による  
地方創生推進事業」（地域志向の活動を通して学生の  
教育・人材育成に取り組む大学を国が支援するもの）  
の採択を受けた事業の視察。

復命事項

別紙参照

※別添資料 あり

# 復命書

## (行政視察報告書)

視察日  
平成 27 年 7 月 23 日

視察先  
春日井市役所（企画政策課）

作成日  
平成 27 年 9 月 9 日

作成者  
日進市議会議員 大橋ゆうすけ

日 時：平成 27 年 7 月 23 日  
場 所：春日井市役所（企画政策課）  
窓 口：企画政策課  
対 応 者：課長 山口剛典氏 主査 牧 泰弘氏

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業 COC（=Center of Community）」とは文部科学省が推進している、わが国が地方創生の取り組みの中で地域の課題解決に取り組む大学を支援するものです。中部大が、この事業において、「春日井市における世代間交流による地域活性化・学生共育事業」を申請し、平成 25 年度に採択されました。

### 大学での授業

地域社会の再生のために必要な人材の育成を目指して、「特別課題教育科目」に新科目として『地域共生実践～春日井市問題発見のすすめ～』を設置し、地域で“多くの年代”や“さまざまな考え方や文化の人々”が共に生活することに対応する人間的基盤形成を目的としています。

今後は、地元・春日井市と連携してさまざまな構想のもと、大学の持つ人材や技術、知の資産を活用して地域再生・地域活性化に取り組み、地域の方々や学生と共に実践し、創造・協働・自立の精神を身につけた、あてになる人間、地域創成メディエーター（仲介人）を育成しようとされています。

学生の成長を飛躍させる取り組みとして「地域との関わり体験プログラム」を掲げ、以下の 6 つの重点事業に学生がさまざまな形で関わっています。

### ～地域との関わり体験プログラム～

#### 1、報酬型インターンシップ ホーム（“報酬型”「給与を得る」＋“インターンシップ”「就業&育成」＝人材育成を目的とした就業体験。）

：最近多くの大学で耳にする「インターンシップ」。その多くは、給料なしで学生が就業体験し、単位が取れるものですが、中部大学では給料をもらって働きながら社会人教育を受けるといったものです（単位は与えられない）。

中部大学では、春日井商工会議所と報酬型インターンシップに関わる協定を締結しており、商工会議所が提示した企業の中から希望する企業を選んで働くことができます。

企業にとっては当面の人材確保と地元での雇用促進につながるメリットが生まれ、学生・企業の双方に利点があります。長期型と多業種型が用意されており、多業種型は、2 か月ごとに勤務先を変えるユニークなもので、自分にどのような職が向いているのかを見極めることもできます。

#### 2、高齢者・学生交流 Learning Homestay（ニュータウンの高齢化問題を解決する新しい試み）

：高蔵寺ニュータウンでは高齢化が進み、社会的孤立が問題となっており、町の活気が失われつつあると言われていています。その中で、中部大学の学生と高齢者

が「お見合い」をした上で、高齢者のお宅にホームステイする試みが2013年9月に実施されました。

将来の日本社会を背負って立つ学生たちにとっては高齢者の近くに住むことで実選的な学びになる一方、高齢者には、いざと言う時に若い人がいる安心感、地域の防災や防犯の面で利点があると期待されています。また、高蔵寺ニュータウン内の空き家を学生寮として活用し、学生と高齢者が身近に暮らす町づくりも構想中との事でした。（※参考資料1）

### 3、シニア大学 CAAC（高齢者のセカンドライフづくりに貢献）

：「中部大学アクティブアゲインカレッジ（CAAC： Chubu University Active Again College）」プロジェクトは、定年退職後などのシニアの方（50歳以上）を対象とし、再学習の機会を提供し、資格や技術を身に付けるなど、再雇用も視野に入れた取り組みです。

学生にとっては、高齢者と共に学ぶことで、マナーや言葉遣いが向上し、人生設計を手本にさえてもらえるなど、人生の先輩として様々な学びを得ることが出来ます。（※参考資料2）

### 4、キャンパスタウン化（大学とニュータウンが一体化し、広がる学びの場）

：中部大学のキャンパス機能を高蔵寺ニュータウンまで拡大し、地域と共に育む大学教育の場と学生生活の場をニュータウン内に設定し、地域と大学が融合した、キャンパスタウンとして活性化する取り組みです。

具体的には、①春日井市・都市再生機構との連携によるシェアハウスや連携住居の提案②ニュータウン内に CAAC を運用する際の第2キャンパスとなりうる場所・施設の用意などが挙げられています。

### 5、生活・住環境を考えるまちづくり（地域の人々が安心して快適な生活を送るための研究を促進）

：春日井市都市計画マスタープランに掲げられている6つのまちづくり重要課題「都市の機能集約」「都市活力を維持・増進するためのまちの機能強化」「人と環境への配慮」「災害などへの対応強化」「春日井らしさの感じられるまちの創出」「市民主体によるまちづくり」を解決するために工学部が中心となって、人々が安心して快適な生活を送れるように、学術分野の地域協働研究を行っています。

### 6、コミュニティ情報ネットワーク（地域の人々の役に立つ情報ネットワークの構築を目指す）

：医療機関ごとに個別管理されている診察、診療、検査、投薬などの情報を一元管理し、別の病院でも活用できる環境を構築。さらには、地域のNPO活動や病院の待ち時間、診療科目などの情報をリアルタイムに提供するシステムの構築も予定されている。

その他にも CAAC の講義・講演が離れたところでも受講できるシステムの構築も予定されており、地域に役立つ情報ネットワークの構築を目指しています。

## 所感

日進市における一過性の大学連携とは異なり、継続的な研究や取り組みがされており、また、その中で地域の商工業とも連携を図りながら、産官学の取り組みを実践されています。日進市商工会においては、県全体の一律的な取り組みが多く独自の取り組みや日進市との連携が確立されていないと感じました。

以前、市議会においても請願として提出された『産業競争力強化法に基づく「創業支援事業計画」の認定申請』についても、日進市、日進市議会をはじめ商工会においても、前向きな姿勢を感じることはできませんでした。

日進市の将来像【近隣市町を含めての地域づくりをはじめ、日進市の「まちづくり・環境づくり・人づくり」の方針】を明確に示し共有することが最優先であり、その中で、それぞれが何をしなければならないのかをしっかりと認識する必要があると考えます。

今までと同じことだけでなく、能動的な取り組みが求められる現在においては、産官学+金融関係との取り組みによる積極的なまちの魅力向上を目指さなければなりません。問題が発生してからでは手遅れになってしまうため、日進市においても近い将来に迎えるであろう高齢化と人口減少の対応施策を早急に展開する必要があると感じました。

高齢化の課題については、高蔵寺ニュータウンのような場所はないものの、地域によっては、高齢化率が30%を超え、児童・生徒が減少している地域もあります。

地域活性化の判断を行うにあたって経済効果の予測も立てないまま行う区画整理では、その場しのぎの対応に過ぎず、人口が増加するだけで、日進市における財政問題を解決する根本的な対策にはなり得ないと考えます。

空き家問題が深刻になる中で、日進市においても調査を行うこととされておりますが、調査後にどのような対応を検討されているのか、具体的な案が見えてきません。

日進市においても、ホームステイが可能かと考えますが、これも数日から一週間の取り組みであり、継続性は担保されません。そのため、区画整理で人口増加を図るのではなく、既存の資源（空き家）を活用できるような取り組みが必要であると考えます。

中部大学の目的である、「高齢者の近くに住むことで実選的な学びになる一方、高齢者には、いざと言う時に若い人がいる安心感、地域の防災や防犯の面で利点がある」を達成するならば、核家族化を減少させ、古い良き日本の風景に戻すことができるような多世代家族の形成・促進を図るため「多世代家族支援」の取り組みをスタートさせ、何世代にもわたって住み続けてもらえるような環境づくりが必要であると考えています。

支援対象としては、「現在は核家族だが、両親を迎え入れ同居や隣居される場合」や「多世代家族での移住を検討されている方」として、空き家の仲介や引っ越しにかかる費用の補助などを行うこのような支援により、女性の就業支援にもつなげることが可能ではないかと考えています。

シニア大学 CAAC は、日進市における「いきいきシルバースクール」名前のイメージに似ているが、内容が全く異なっています。(参考資料 2 を添付してあるので、概要は確認して頂けます)

日進市も大学連携として事業を展開するのであれば、中部大学のような「再学習の機会を提供し、資格や技術を身に付けるなど、再雇用も視野に入れた取り組み」を実施することが必要であり、また、長期間(中部大学では 2 年間)に渡り、健康増進、地域貢献、就労支援、資格取得などの教育と支援を行うことで、地域社会課題の解決に寄与すると共に、地域社会で活躍できる人材の育成にもつなげることが期待できると考えています。

高齢化が進む中、一人でも多くの「元気なお年寄り」を増やすことが地域課題の解決だけでなく、医療費の削減にもつながり、健康寿命の増進を図ることが出来るものと考えます。

中部大学としては、様々な検討を行い事業の展開を行っている一方、春日井市役所では、計画及び実施が中部大学であるため、事業内容を十分に理解できていない部分もあるように感じた。しかし、大学の担当者と市役所の各関係部署とは、綿密に連絡や相談等を行っているとの事で、事業実施に必要な情報提供も要望に応じながら行っているとの事でした。

事業を開始してからの時間が短く、成果を十分に検討できる状態ではないとの事でしたが、市内に 6 つの大学を有し、市内・市外を含め 8 つの大学と連携協力協定を締結している日進市においては、更なる効果や事業展開が見込める、大変参考になる取り組みであると感じましたので、早速、各大学へ政務調査を実施したいと思えます。